

生徒アンケート 分析

1 実施時期 7月中旬

2 実施人数 96名

3 分析方法

肯定的回答(そう思う、だいたいそう思う)が9割以上:「○」

肯定的回答(そう思う、だいたいそう思う)が8割以上9割未満:「-」

否定的回答(あまり思わない 思わない)が2割以上:「×」

項目	番号	質問内容	分析
全般	1	自分なりに目標を持って学校生活を送っている。	○
	2	中学校生活は楽しく充実していると思う。	○
	3	松柏中学校が好きである。	○
行事等	4	学校行事、生徒会活動などに積極的に参加している。	-
	5	楽しみにしている学校行事や生徒会活動がある。	○
	6	進んで地域活動や行事に参加している。	-
学習面	7	学校は丁寧に、分かりやすい授業をしている。	○
	8	授業の内容はよく理解できる教科が多い。	-
	9	基本的学習習慣が身に付いている。	-
生活面	10	きまりを守り、規則正しい生活を送ろうと心掛けている。	-
	11	自ら進んで挨拶をしている。	○
	12	学校は、自分たちの間違っただ行動に対して、適切に指導している。	○
人権面	13	思いやりや優しさの気持ちを持って、生活している。	○
	14	学校で、命の大切さや人権意識について学んだ。	○
	15	学校は、いじめや仲間はずしが起きないように取り組んでいる。	○
	16	家族に、学校での出来事をよく話している。	-
その他	17	学校は、連絡・相談したことについて適切に対応してくれる。	○
	18	自分の学校生活について家族が関心を持ってくれている。	-
	19	自分の進路について、真剣に考えることができている。	-
	20	部活動に進んで参加している。参加した。	○

【全般】について

全ての問いに対し、肯定的回答が9割以上あり、多くの生徒が目標を持って意欲的な学校生活を過ごしていることがうかがえる。問い1に対しては、2年生の肯定的回答の割合がとても高いが、1年生では比率が低い。臨時休業のために中学校生活のスタートに適切な目標を持つことが難しいと感じた生徒がいることが分かる。2学期は中学校生活ならではの活動に対して見通しを持たせ、目標を設定しながら充実感を味わわせたい。問い2、3について全校生徒の大多数が肯定的な考えを持ち、中学校での生活を楽しみ、所属していることに満足を感じていることが分かる。

【行事等】について

コロナ禍により、たいへん多くの行事が実施できなかつたため、問い4、6についての回答が低調になっていると考えられる。特に、地域活動への参加が制限されたため全校で低調な回答であった。しかし、2年生は肯定的な回答者が多く、限られた機会を大切に考え、主体的に取り組もうとしていると考えられる。問い5に対して、全学年特に3年生は今後の行事や活動に非常に期待している。活躍のチャンスを十分に与えられていない3年生が、満足感を味わえるような学校行事、生徒会活動を工夫して行っていきたい。

【学習面】について

問い7については全学年で肯定的な回答が9割を超えている。教師が生徒の理解を高めるために配慮した授業を行っていることが理解されていると考えられる。しかし、問い8については、1年生の2割以上の生徒が否定的な回答をしており、課題が残った。臨時休業により、教師が焦って授業を進めることのないよう共通理解を図った。また、問い9については、1、3年生が肯定的な回答率が低くなっている。進路実現に向けて学習面で努力を要する3年生、学力面で配慮を要する生徒の割合が多い1年生に、学習習慣を定着させるよう、粘り強く指導していきたい。

【生活面】について

問い10の回答で、いる生徒の割合が多い。2年生は全員が肯定的な回答をしており、規範意識が高いことが分かる。問い11の回答では9割以上が肯定的な回答であるが、2学期が始まった当初は、挨拶が低調に感じられた。そこで、教職員で学級や部活動の場での挨拶をしっかりと定着させるよう、共通理解を図った。それによって大きく改善されている。問い12に対しては、生徒は教師の指導が適切になされていると捉えている。今後も教師と生徒の信頼関係が適切に保てるように配慮し、公正な指導を心掛けたい。

【人権面】について

問い13、14、15については、高い評価となった。プログレスの活動など、本校が力を入れている項目であり、嬉しい結果である。問い13に対して、2年生は全員が肯定的な回答をしている。心情の高まりから、実践力の高まりまで繋げられるよう粘り強く支援していきたい。

【その他】について

問い20については、ほぼ全員が肯定的な回答をした。今後も生徒が意欲的に取り組めるような部活動経営を目指したいものである。問い19に対しては、例年通り1年生の肯定的な回答が低かった。今後は早い段階から計画的に進路指導を行い、目標を持って生活できるよう支援しなければならないと考える。